

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 5 号 (5 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 快晴のち土砂降り

5 月 12 日 (土)、13 日 (日) 山形市落合のスポーツセンターにて村山地区大会が開催されました。プリンスリーグ東北、山形県リーグ (Yリーグ) に参加している高体連チームの中で上位 8 チームには県総体のシード権が無条件で与えられているため、第 7 シードを確保している山形東<sup>1</sup>にとって地区総体は「消化試合」。ですが、県総体の前哨戦であるため、波に乗りたい各チームにとって、どうしてもよい試合のはずがない！ しかも、やはり名誉というか意地とプライドがかかっていますからね。地区大会が熱くならない訳がありません。

山東の初戦は上山明新館。3 年生の部員数・タレントともに豊富で、前線に速い選手が揃っているチーム。伝統的には、技術というより頑張り勝負するチームカラーで、山東と同じタイプ。山東は昨年の地区新人でかなり苦しい試合を強いられた記憶があり、あれからどちらのチームがチーム力をアップさせたのか、見物の戦いとなりました。前半はセンターバック C B とサイドバック S B の間 (ギャップ) にシンプルにボールを運び、足の速い選手を走らす明新館に押され気味の展開。凌いで 0 - 0 でハーフタイムを迎える。後半は逆に山東ペースの時間が長かったが、やはり速い選手に山東 C B が付いて行けず、ループシュート<sup>2</sup>から失点。しかし、失点后すぐ、2 年リクが鮮やかなボレーシュートを決め、同点に。サカグチの的確なシュートストップもあり、しぶとく P K 合戦に持ち込む。この P K 合戦、サカグチが次々と相手キックを止め、3 - 1 (4 人目で終了) で勝利。正直、「地区新人からチーム力をよりアップさせたのは山東だ」と言いたかったのですが、この試合、その基準で言っても引き分け (または負け) といったところか。

準決勝<sup>2</sup>の相手は山形商業。顧問は、山商は地区大会後の Y1 ですぐ当たるし山南には昨年の進学校大会で 0 - 3 で敗れていることから、山商 - 山南戦を山南応援目線で観ていたのですが、押され気味ながらやはり山商は結果を出してくる。相手はやはり山商。技術とパスワークで迫る山商に対し、縦に速い攻撃と粘りで堪える山東といった試合展開。ですが堪えられない山形東！ 簡単に左サイドを破られ右サイド (ゴール中央) で簡単にシュートを許す最近の山東のいつもの失点パターンにより、早々と 2 失点を喫する。下手なんだから、粘れなければ終わるんですよ。そ

<sup>1</sup> 第 1 シードから順に、日大山形 (プリンス 2 部)、羽黒 (Y1 以下省略)、山商、東海、鶴工、山中央、山東、明新館となります。昨年のリーグ戦の成績によりシードが決定されます。

<sup>2</sup> 村山地区大会は Y1 所属の 5 チームと M リーグ上位 3 チームの計 8 チームのトーナメントで決勝トーナメントが行われました。

んな顧問の嘆きを聞いたか聞かなかったか、この試合、選手が発奮いたしました！！前半終了間際に、右サイドからのクロスボールのこぼれ球をリクが冷静に決め、1 - 2で折り返す。これが、山形東サッカーOB会HPの管理人ゴトウ報道局長の言葉通り、「今思えば大きかった」。後半も大味な攻めを続け、山商DFに跳ね返され続けた山東の攻撃だったのですが、まずは後半開始から投入されたマンサクが山商ゴール前の混戦から右足ループシュートを鮮やかに？決め、2 - 2の同点に。左利きのマンサク、右足下手だからあんなホンワカしたシュートになったのか、狙い通りなのか、恐らく後者なのでしょうが、とにかく大きな同点シュート。押せ押せになる山東。そして、とうとうクライマックスの到来。同じくマンサクが、右サイドを駆け上がり相手SBをさらりとかわした後、中央にちょっと切れ込みすぐ左足でファーサイドに巻くようなシュートを放つと、素晴らしい軌道でGKの手の上を越えて山商ゴール左上隅(山商側から言うとゴール右上隅)に逆転シュートが決まる。このシュート、私が山東に来た中で美しさで行ったら文句なくNo.1のシュートでした。美しい、美しすぎるシュートで、思わず顧問がマンサクにかけた言葉は「良いもの観させてもらった」。そのままタイムアップで山東の2 - 3の大逆転勝利。このチーム、公式戦の逆転勝ちって、これが初めてなのです！！これまでいかに淡白な試合を続けたか、ということを示すような話ですが、これから増えていけばいいんですよね。こう考えることにします。これで決勝進出。

決勝の相手は、シード権を持たないながら、山形中央、東海大山形の強豪をしぶとく破って勝ち上がった山形城北。中学時代に必ずしも名が知られていないような選手を集め育て上げる顧問W辺先生の育成手腕には定評があり、顧問の一部には城北のことを「最もコストパフォーマンスが良いチーム」と評する向きもある。試合は、混戦からクリロンがコースを狙ったシュートを決め山東が先制すると、その後、不運な形から城北GKが退場となってしまい、山東完全有利な状況となる。しかし、これが実力なんですね、10人の城北に終始優勢に試合を進められ、守るのでやっと。カウンターからハムが決め、結局2 - 1で勝利するも、完全にしてやられた感のある決勝戦。後味の悪さを感じつつ、優勝カップを手に入れました。これまで全く結果の出ていなかったこのチームですから、ここは喜ぶべきなのでしょう。ただし、その後のY1の2試合を知っている今となっては・・・。

4月28日のPTA総会の代休に当たる5月14日(月)、Y1第4節の羽黒戦が天童第二(人工芝)で行われました。結果は、90分ずっと攻められ続け、0 - 7。試合前、羽黒のベンチに「得失点の関係もあるので6点までにしてもらえますか？」とお願いしていたんですけどね～。そして、5月19日(土)のY1第5節山商戦(山形中央G)、子どものロタウィルスが移り下痢に苦しめられた顧問今野も何とか体調が戻り、試合会場に駆けつけましたが、6失点の惨敗(スコア3 - 6)。山東守備大崩壊！そして振り返ってみると、4月から無失点の試合がないんですよね～。

県総体第一ラウンドに向け、守備の立て直しが急務となっている山東。とにかく、第一ラウンド、5月27日(日)酒田光陵 - 山本学園の勝者と酒田光陵G(旧酒田中央高校)にて13:00キックオフで戦ってきます。

皆様、遠方となりますが、応援よろしく申し上げます。